

在ヨーロッパ・韓国学者の目からみた**日本と韓国**そして韓流、両国の知らなかった歴史！

(AB)USES of HISTORY

Ancient History of Korea as a Contested Terrain

乱用された**歴史**

講演者

ノルウェー・オスロ大学

ヴラディミル・ティコノフ(林^{ハル}ノサ^{ノサ}露子)教授



【講演内容要略】

古代史－初期中世の歴史は、その華々しさと偉大さ（現実・想像上・あるいはその両方）から、多くの民族主義において最も重要な時代とされがちである。スカンジナビア民族主義者の語るバイキングの活躍などは、良く知られた一例である。南北朝鮮も例外ではなく、実際、植民の過去などは、民族主義における古代史の重要性を強調しているに過ぎない。この講演は、日本人の植民研究者が作り出した朝鮮史の物語の概要を述べ、またそれが独立後の、特に韓国における歴史研究に与えた影響を分析するものである。また、国家主義的イデオロギーに支えられた朴正熙の発展指向型国家における、古代史の政治問題化にも焦点を当てる。さらに、「韓流」と呼ばれるポップカルチャー生産者にとってもコンテンツ供給源となっている、こんにちの朝鮮古代史の「商品化」の傾向にも光を当てる。

対象： 埼玉大学の学部・大学院生

日時： 平成27年1月14日(水) 14:30-16:00

会場： 総合研究棟1階・シアター教室

お問合せ先： 埼玉大学・経済学部 048(858)3286 keizaigakumu@gr.saitama-u.ac.jp